

学校教育における子どもの生命・健康の位置づけに関する研究 第3報

各校の教育目標との関連を中心に

斉藤ふくみ・小田徳彦*・天野敦子**

A Study of Significance on Children's Life and Health under School Education: The Third Report Focusing on its Relationship with Educational Goals of Individual Schools

Fukumi SAITO, Naruhiko ODA* and Atsuko AMANO**

(Received october 1, 2003)

This study analysed the educational goals of various schools for the purpose of understanding the position of children's lives and health etc., in school education. We chose 705 elementary, junior high, and high schools randomly throughout Japan, and received data on the educational goals of 221 of these schools (75 elementary, 70 junior high, and 76 high schools).

The results of the survey are as follows:

In elementary and junior high schools, each school's educational goals tended to reflect the actual situation of the children, whereas in high schools, they tended to reflect the schools' precepts and traditions. The contents of the educational goals could be classified into 25 items. In approximately 80% of the schools, "mental health" and "physical health" were rated as educational goals, whereas "respect for life" was low at 3.6%. The understanding and evaluation by other staff was high with regards to the stance of yogo teachers in terms of educational goals such as "independence", but low in terms of "humanity".

It is important that yogo teachers continue to deepen their experience in order to make definite evaluations of activities within the school education that protect and nurture the children's life and health, while appealing to the school as a whole.

Key words : School Education, Life and Health, Educational Goals

1. はじめに

子どもの心身の健康問題が次々と表出してきて、これらの健康問題に的確に対応していく養護教諭の能力が多方面から期待されている。約20年前においては、学校での「健康と身体の教育」という使われ方すら一般的ではなかった¹⁾時代に比べると、近年ほど子どもの健康について声高に話題にされ、議論される時代はなかったと思われる。このような状況のなかで、学校教育における子どもの生命や健康の位置づけを確認す

ることは意義あることと思われる。

本研究は、学校教育において子どもの生命や健康がどのような位置づけにあるのかについて明らかにすることを目的としている。本報では、子どもの生命・健康の位置づけを探る指標として教育目標に着目した。各学校では、教育基本法・学校教育法の法律で定められた一般的な教育目標を踏まえ、公立学校の場合には、都道府県・市町村教育委員会の教育方針に基づきながら、地域の特性、子どもの実態、父母の期待、さらに教師の描く人間像などを総合的に考慮して学校教育目標を設定する²⁾とされる。そこで本報は、学校教育目

* 北海道恵庭北高等学校

** 弘前大学

標における子どもの生命・健康の位置づけを捉えること、さらに養護教諭が感じとる学校の雰囲気(印象)も分析の視点に加えて、現在の学校において占める子どもの生命・健康の位置を類推しようと試みたものである。松井ら³⁾⁴⁾、坂田ら⁵⁾は、教育目標における健康の捉え方と学校保健活動の関わりについて継続的に研究・報告を行っているが、これらの先行研究に学びながら、さらに養護教諭の執務との関わりも捉えようとした。

第1報⁶⁾で、全国都道府県の行政機関の定める教育目標において、子どもの生命・健康がどのような位置づけにあるのか分析した結果、「人間尊重」「身体の健康」「心豊か」が5～6割であった。第2報⁷⁾では、学校現場において、子どもの生命・健康の位置づけが養護教諭の執務とどのような関連があるのか分析した。子どもに対する学校全体の印象が、「生命尊重」「身体の健康尊重」「心の健康尊重」選択群は、非選択群に比較して、養護教諭の執務への他者の理解および評価はともに高い傾向が認められた。

本報では、各校の教育目標の分析を行い、子どもの生命・健康の位置づけを捉え、教育目標と養護教諭の執務への他者の理解と評価との関わりについて明らかにした。そのうえで、養護教諭として子どもが日々安全で健康な学校生活を送れるように支援している立場から考察を試み、今後の養護教諭の活動に示唆を得ることとする。

表1 調査対象の内訳

	校数 (%)	
	目標の添付あり	目標の添付なし
小学校 n= 91	75(82.4)	16(17.6)
中学校 n= 82	70(85.4)	12(14.6)
高校 n= 93	76(81.7)	17(18.3)
全体 N=266	221(83.1)	45(16.9)

2. 対象および方法

全国の小・中・高校の現職養護教諭を対象に、無作為に705名(小・中・高各235名)を抽出し、2000年7月20日から10月30日に質問紙郵送調査を行った。273名より回答があり、回収率は38.7%であった(そのうち、中高併置校等7名を除いた)。その際、自校の教育目標の添付を依頼し、添付のあった221校(小75校・中70校・高76校)を分析対象とした。調査対象の内訳は表1のとおりである。

3. 結果

1) 教育目標に関連する設定項目

各校の教育目標に関連する設定項目は、「教育目標」100%、「努力目標・重点目標」64.7%、「基本方針・経営方針」44.3%、「校訓・校風」40.3%が高くなっていった。校種間で比較すると、図1に示したように、いずれも「努力目標・重点目標」が高く、以下小学校では

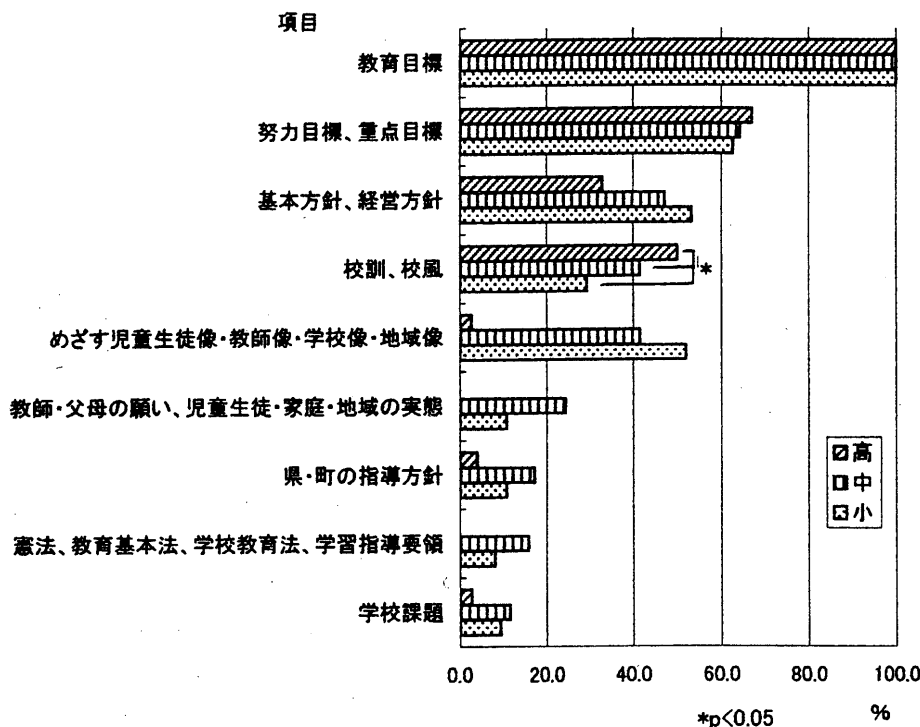


図1 校種別にみた教育目標に関連する設定項目

表2 各校の教育目標の内容

	校数 (%)			
	小学校 n=75	中学校 n=70	高校 n=76	全体 N=221
1. 心・豊かな心 *	69(92.0)	60(85.7)	56(73.7)	185(83.7)
2. 身体の健康・たくましさ **	66(88.0)	59(84.3)	47(61.8)	172(77.8)
3. 学び・知性	47(62.7)	53(75.7)	50(65.8)	150(67.9)
4. 自主性・主体性 **	19(25.3)	34(48.6)	39(51.3)	92(41.6)
5. 人間尊重・人間性 **	18(24.0)	17(24.3)	34(44.7)	69(31.2)
6. 実践力・行動力	21(28.0)	22(31.4)	18(23.7)	61(27.6)
7. 国際社会・社会の形成者	6(8.0)	15(21.4)	38(50.0)	59(26.7)
8. 創造性	18(24.0)	18(25.7)	21(27.6)	57(25.8)
9. 社会性・協調	22(29.3)	12(17.1)	16(21.1)	50(22.6)
10. 生きる力	25(33.3)	14(20.0)	2(2.6)	41(18.6)
11. 勤労	2(2.7)	8(11.4)	28(36.8)	38(17.2)
12. がんばる子・忍耐力	17(22.7)	13(18.6)	7(9.2)	37(16.7)
13. 意欲・意志	8(10.7)	16(22.9)	12(15.8)	36(16.3)
14. 公正・正義	5(6.7)	12(17.1)	15(19.7)	32(14.5)
15. 個性	3(4.0)	6(8.6)	22(28.9)	31(14.0)
16. 郷土や自然を愛する	8(10.7)	5(7.1)	8(10.5)	21(9.5)
17. 礼儀・規律を守る	3(4.0)	5(7.1)	12(15.8)	20(9.0)
18. 責任	1(1.3)	5(7.1)	12(15.8)	18(8.1)
19. 平和を愛する	1(1.3)	3(4.3)	7(9.2)	11(5.0)
20. 安全	3(4.0)	1(1.4)	5(6.6)	9(4.1)
20. 奉仕・ボランティア	0(0.0)	3(4.3)	6(7.9)	9(4.1)
22. 生命尊重	2(2.7)	5(7.1)	1(1.3)	8(3.6)
23. 表現力	2(2.7)	2(2.9)	1(1.3)	5(2.3)
24. 基本的生活習慣	0(0.0)	2(2.9)	2(2.6)	4(1.8)
25. 環境美化	0(0.0)	0(0.0)	3(3.9)	3(1.4)

χ^2 検定, d.f.=2, *: p<0.05, **: p<0.01

「基本方針・経営方針」53.3%、「めざす児童生徒像・教師像・学校像・地域像」52.0%が高く、中学校では「基本方針・経営方針」47.1%、「校訓・校風」「めざす児童生徒像・教師像・学校像・地域像」がともに41.4%、高校では「校訓・校風」が50.0%と高く、次いで「基本方針・経営方針」が32.9%であった。高校では「めざす児童生徒像・教師像・学校像・地域像」は2.6%と小・中学校と比べると著しく低かった。なお、校種間で有意差がみられたのは「校訓・校風」であった (p<0.05)。

2) 教育目標の内容

各校の教育目標の内容は25項目に分類することができた(表2)。全体的にみると、「心・豊かな心」83.7%、「身体の健康・たくましさ」77.8%、「学び・知性」67.9%の3項目が高くなっており、第一グループを形成していた。第二グループとしては「自主性・主体性」41.6%、「人間尊重・人間性」31.2%、「実践力・行動力」27.6%、「国際社会・社会の形成者」26.7%、「創造性」25.8%、「社会性・協調」22.6%が中間層を形成していた。次いで第三グループとして、「生きる力」18.6%、「勤労」17.2%、「がんばる子・忍

表3 校種別にみた教育目標の内容(上位10項目)

		校数 (%)				
小学校 n=75		中学校 n=70		高校 n=76		
1	心・豊かな心	69(92.0)	心・豊かな心	60(85.7)	心・豊かな心	56(73.7)
2	身体の健康・たくましさ	66(88.0)	身体の健康・たくましさ	59(84.3)	学び・知性	50(65.8)
3	学び・知性	47(62.7)	学び・知性	53(75.7)	身体の健康・たくましさ	47(61.8)
4	生きる力	25(33.3)	自主性・主体性	34(48.6)	自主性・主体性	39(51.3)
5	社会性・協調	22(29.3)	実践力・行動力	22(31.4)	国際社会・社会の形成者	38(50.0)
6	実践力・行動力	21(28.0)	創造性	18(25.7)	人間尊重・人間性	34(44.7)
7	自主性・主体性	19(25.3)	人間尊重・人間性	17(24.3)	勤労	28(36.8)
8	人間尊重・人間性	18(24.0)	意欲・意志	16(22.9)	個性	22(28.9)
9	創造性	18(24.0)	国際社会・社会の形成者	15(21.4)	創造性	21(27.6)
10	がんばる子・忍耐力	17(22.7)	生きる力	14(20.0)	実践力・行動力	18(23.7)

表4 教育目標の内容と学校における子どもに対する印象との関わり

教育目標	複数回答；人数（％）						
	子どもについての印象 生命が尊重 されている	身体の健康 が尊重され ている	心の健康が 尊重されて いる	学力が重視 されている	体力が重視 されている	個性が重視 されている	全体
1. 心・豊かな心	94(50.8)	68(36.8)	106(57.3)	68(36.8)	35(18.9)	66(35.7)	185(100.0)
2. 身体の健康・たくましさ	87(50.6)	62(36.0)	98(57.0)	62(36.0)	29(16.9)	64(37.2)	172(100.0)
3. 学び・知性	73(48.7)	54(36.0)	82(54.7)	64(42.7)	27(18.0)	48(32.0)	150(100.0)
4. 自主性・主体性	45(48.9)	37(40.2)	52(56.5)	35(38.0)	11(12.0)	31(33.7)	92(100.0)
5. 人間尊重・人間性	33(47.8)	29(42.0)	38(55.1)	28(40.6)	12(17.4)	22(31.9)	69(100.0)
6. 実践力・行動力	34(55.7)	23(37.7)	33(54.1)	20(32.8)	8(13.1)	20(32.8)	61(100.0)
7. 国際社会・社会の形成者	24(40.7)	23(39.0)	30(50.8)	25(42.4)	11(18.6)	17(28.8)	59(100.0)
8. 創造性	29(50.9)	22(38.6)	28(49.1)	23(40.4)	9(15.8)	21(36.8)	57(100.0)
9. 社会性・協調	25(50.0)	14(28.0)	29(58.0)	17(34.0)	8(16.0)	14(28.0)	50(100.0)
10. 生きる力	26(63.4)	16(39.0)	25(61.0)	13(31.7)	6(14.6)	16(39.0)	41(100.0)
11. 勤労	15(39.5)	18(47.4)	18(47.4)	9(23.7)	10(26.3)	10(26.3)	38(100.0)
12. がんばる子・忍耐力	17(45.9)	15(40.5)	24(64.9)	17(45.9)	7(18.9)	11(29.7)	37(100.0)
13. 意欲・意志	16(44.4)	12(33.3)	18(50.0)	18(50.0)	8(22.2)	14(38.9)	36(100.0)
14. 公正・正義	17(53.1)	15(46.9)	18(56.3)	14(43.8)	4(12.5)	9(28.1)	32(100.0)
15. 個性	13(41.9)	8(25.8)	11(35.5)	17(54.8)	6(19.4)	8(25.8)	31(100.0)
16. 郷土や自然を愛する	10(47.6)	8(38.1)	14(66.7)	9(42.9)	2(9.5)	9(42.9)	21(100.0)
17. 礼儀・規律を守る	6(30.0)	3(15.0)	7(35.0)	13(65.0)	4(20.0)	6(30.0)	20(100.0)
18. 責任	6(33.3)	10(55.6)	6(33.3)	5(27.8)	5(27.8)	8(44.4)	18(100.0)
19. 平和を愛する	3(27.3)	4(36.4)	7(63.6)	2(18.2)	1(9.1)	2(18.2)	11(100.0)
20. 安全	4(44.4)	2(22.2)	6(66.7)	5(55.6)	0(0.0)	3(33.3)	9(100.0)
21. 奉仕・ボランティア	5(55.6)	2(22.2)	5(55.6)	3(33.3)	1(11.1)	7(77.8)	9(100.0)
22. 生命尊重	5(62.5)	2(25.0)	7(87.5)	5(62.5)	1(12.5)	3(37.5)	8(100.0)
23. 表現力	2(40.0)	0(0.0)	4(80.0)	1(20.0)	1(20.0)	4(80.0)	5(100.0)
24. 基本的生活習慣	2(50.0)	1(25.0)	4(100.0)	1(25.0)	0(0.0)	1(25.0)	4(100.0)
25. 環境美化	0(0.0)	1(33.3)	1(33.3)	2(66.7)	0(0.0)	2(66.7)	3(100.0)

耐力」16.7%、「意欲・意志」16.3%、「公正・正義」14.5%、「個性」14.0%があげられた。以下は「郷土や自然を愛する」「礼儀・規律を守る」「責任」「平和を愛する」「安全」「奉仕・ボランティア」「生命尊重」「表現力」「基本的生活習慣」「環境美化」と続いていた。なお、校種間で比較すると「心・豊かな心」が小学校・中学校・高校の順で学年が上がるにつれて減少し、有意差が認められた ($p<0.05$)。同様に「身体の健康・たくましさ」も学年が上がるにつれて減少し、有意差が認められた ($p<0.01$)。他方、「自主性・主体性」は学年が上がるにつれて有意に上昇し ($p<0.01$)、「人間尊重・人間性」は、小・中学校に比べて高校で有意に上昇した ($p<0.01$)。

校種別に上位10項目までの内容を示したのが表3である。全体的な傾向と同様に、「心・豊かな心」「身体の健康・たくましさ」「学び・知性」の3項目がいずれの校種においても3位まで入っていた。4位以下で校種による違いをみると、小学校では「生きる力」33.3%がわずかに高く、次いで「社会性・協調」29.3%、「実践力・行動力」28.0%と続いていた。中学校では、「自主性・主体性」48.6%、「実践力・行動力」31.4%がやや高く、次いで「創造性」25.7%となっていた。高校では、「自主性・主体性」51.3%、「国際社会・社会の形成者」50.0%が高い割合を占め、次いで「人間尊重・人間性」44.7%、「勤労」36.8%が続いていた。

3) 教育目標の内容と学校における子どもに対する印象との関わり

ここでは教育目標と、養護教諭が捉えた「子どもに対して学校全体から感じられる印象」との関わりをみた。各教育目標に対応する子どもに対する印象は、全体的にみると、子どもの「心の健康が尊重されている」が全印象の中で最も多く選択されていた(表4)。さらに詳細にみると教育目標が「生きる力」では子どもの「生命が尊重されている」印象が多く、「勤労」では「身体の健康が尊重されている」と「心の健康が尊重されている」が同じ割合であり、「責任」では「身体の健康が尊重されている」印象が多かった。「意志・意欲」では「心の健康が尊重されている」と「学力が重視されている」が同じ割合であり、「個性」「礼儀・規律を守る」では「学力が重視されている」印象が多かった。

4) 教育目標の内容と学校における職員に対する印象との関わり

ここでは教育目標と、養護教諭が捉えた「職員に対して学校全体から感じられる印象」との関わりをみた。各教育目標に対応する職員に対する印象は、全体的にみると、職員の「身体の健康が気遣われている」「年休がとりやすい」「職員の和が大切にされている」「子どもについての話し合いがよくなされる」が多く選択されていた(表5)。詳細にみると、教育目標が「人

表5 教育目標の内容と学校における教職員に対する印象との関わり

教育目標	複数回答；人数（％）						
	教職員に対する印象 身体の健康が 気遣われている	心の健康が 気遣われている	遅くまで仕 事をするこ とが望まれ ている	年休がとり やすい	職員の和が 大切にされ ている	子どもにつ いての話し 合いがよく なされる	全体
1. 心・豊かな心	90(48.6)	32(17.3)	23(12.4)	55(29.7)	85(45.9)	82(44.3)	185(100.0)
2. 身体の健康・たくましさ	86(50.0)	26(15.1)	16(9.3)	54(31.4)	81(47.1)	80(46.5)	172(100.0)
3. 学び・知性	73(48.7)	28(18.7)	14(9.3)	51(34.0)	63(42.0)	64(42.7)	150(100.0)
4. 自主性・主体性	47(51.1)	11(12.0)	12(13.0)	38(41.3)	40(43.5)	43(46.7)	92(100.0)
5. 人間尊重・人間性	32(46.4)	12(17.4)	0(0.0)	4(5.8)	6(8.7)	5(7.2)	69(100.0)
6. 実践力・行動力	31(50.8)	10(16.4)	7(11.5)	24(39.3)	24(39.3)	25(41.0)	61(100.0)
7. 国際社会・社会の形成者	27(45.8)	5(8.5)	6(10.2)	30(50.8)	24(40.7)	21(35.6)	59(100.0)
8. 創造性	31(54.4)	9(15.8)	5(8.8)	22(38.6)	17(29.8)	25(43.9)	57(100.0)
9. 社会性・協調	27(54.0)	8(16.0)	4(8.0)	19(38.0)	16(32.0)	23(46.0)	50(100.0)
10. 生きる力	21(51.2)	3(7.3)	5(12.2)	11(26.8)	24(58.5)	20(48.8)	41(100.0)
11. 勤労	19(50.0)	5(13.2)	5(13.2)	17(44.7)	12(31.6)	19(50.0)	38(100.0)
12. がんばる子・忍耐力	20(54.1)	6(16.2)	1(2.7)	13(35.1)	19(51.4)	13(35.1)	37(100.0)
13. 意欲・意志	16(44.4)	5(13.9)	3(8.3)	12(33.3)	18(50.0)	14(38.9)	36(100.0)
14. 公正・正義	19(59.4)	3(9.4)	5(15.6)	14(43.8)	16(50.0)	15(46.9)	32(100.0)
15. 個性	14(45.2)	4(12.9)	2(6.5)	13(41.9)	16(51.6)	8(25.8)	31(100.0)
16. 郷土や自然を愛する	10(47.6)	3(14.3)	2(9.5)	5(23.8)	12(57.1)	11(52.4)	21(100.0)
17. 礼儀・規律を守る	6(30.0)	1(5.0)	3(15.0)	6(30.0)	7(35.0)	9(45.0)	20(100.0)
18. 責任	7(38.9)	3(16.7)	2(11.1)	4(22.2)	10(55.6)	9(50.0)	18(100.0)
19. 平和を愛する	4(36.4)	2(18.2)	2(18.2)	5(45.5)	7(63.6)	9(81.8)	11(100.0)
20. 安全	4(44.4)	0(0.0)	0(0.0)	6(66.7)	5(55.6)	5(55.6)	9(100.0)
20. 奉仕・ボランティア	3(33.3)	1(11.1)	1(11.1)	3(33.3)	5(55.6)	5(55.6)	9(100.0)
22. 生命尊重	5(62.5)	1(12.5)	0(0.0)	4(50.0)	6(75.0)	5(62.5)	8(100.0)
23. 表現力	1(20.0)	1(20.0)	0(0.0)	3(60.0)	2(40.0)	3(60.0)	5(100.0)
24. 基本的生活習慣	4(100.0)	1(25.0)	0(0.0)	1(25.0)	1(25.0)	1(25.0)	4(100.0)
25. 環境美化	1(33.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)	2(66.7)	1(33.3)	3(100.0)

間尊重・人間性」では、職員の「身体の健康が気遣われている」46.4%が高くなっている他は低くなっていた。また「身体の健康・たくましさ」では、職員に対する印象でも「身体の健康が気遣われている」50.0%が高くなっていた。「生きる力」では「職員の和が大切にされている」58.5%が高くなっていた。その他の教育目標では特に目立った傾向は見出せなかった。

教育目標の内容の上位5項目を取り上げ、養護教諭の執務に対する管理職と教職員の理解をみたものが表6である。いずれの項目においても理解が「ある」「普通」と合わせると約9割を占めた。また管理職の方が教職員より理解が高い傾向が認められた。管理職・教職員ともに最も理解が「ある」割合が高い教育目標の内容は「自主性・主体性」であった。一方「人間尊重・人間性」では管理職・教職員ともに理解が低く、管理職で有意差が認められた (p<0.01)。その他

5) 教育目標と養護教諭の執務に対する他者の理解

表6 教育目標（上位5項目）と養護教諭の執務に対する管理職および教職員の理解

教育目標	n	人数（％）			
		ある	普通	ない	NA
管理職の理解					
心・豊かな心	n=185	79(42.7)	88(47.6)	16(8.6)	2(1.0)
身体の健康・たくましさ	n=172	74(43.0)	79(45.9)	17(9.9)	2(0.6)
学び・知性	n=150	62(41.3)	68(45.3)	18(12.0)	2(1.3)
自主性・主体性	n=92	46(50.0)	38(41.3)	7(7.6)	1(1.0)
人間尊重・人間性 **	n=69	25(36.2)	31(44.9)	12(17.4)	1(1.4)
教職員の理解					
心・豊かな心	n=185	62(33.5)	106(57.3)	15(8.1)	2(1.1)
身体の健康・たくましさ	n=172	56(32.6)	101(54.6)	12(7.0)	3(1.7)
学び・知性 *	n=150	43(28.7)	90(60.0)	14(9.3)	3(2.0)
自主性・主体性	n=92	35(38.0)	52(56.5)	3(3.3)	2(2.2)
人間尊重・人間性	n=69	19(27.5)	41(59.4)	7(10.1)	2(2.9)

χ^2 検定（検定はNAを除いている）、* : p<0.05, ** : p<0.01, df=2

表7 教育目標（上位5項目）と養護教諭の執務に対する管理職および教職員の評価

教育目標	n	管理職の評価					人数 (%)
		高い	普通	低い	わからない	NA	
心・豊かな心	n=185	31(16.8)	136(73.5)	14(7.6)	1(0.5)	3(1.6)	
身体の健康・たくましさ	n=172	29(16.9)	127(73.8)	13(7.6)	1(0.6)	2(1.2)	
学び・知性	n=150	25(16.7)	105(70.0)	15(10.0)	2(1.3)	3(2.0)	
自主性・主体性	n=92	18(19.6)	62(67.4)	8(8.7)	2(2.2)	2(2.2)	
人間尊重・人間性	n=69	11(15.9)	49(71.0)	8(11.6)	1(1.4)	0(0.0)	

教育目標	n	教職員の評価					人数 (%)
		高い	普通	低い	わからない	NA	
心・豊かな心	n=185	25(13.5)	136(73.5)	20(10.8)	1(0.5)	3(1.6)	
身体の健康・たくましさ	n=172	22(12.8)	130(75.6)	17(9.9)	1(0.6)	2(1.2)	
学び・知性	n=150	20(13.3)	107(71.3)	18(12.0)	2(1.3)	3(2.0)	
自主性・主体性	n=92	13(14.1)	67(72.8)	8(8.7)	2(2.2)	2(2.2)	
人間尊重・人間性 *	n=69	9(13.0)	47(68.1)	12(17.4)	1(1.4)	0(0.0)	

χ^2 検定（検定はわからない，NAを除いている），*：p<0.05，df=2

表8 教育目標（上位10項目）と養護教諭が重点を置いている執務（上位10項目）との関わり

目標	n	人 (%)				
		救急処置	相談活動	個別的支援	個別的保健指導	健康診断に関わる仕事
心・豊かな心	n=185	101(54.6)	69(37.3)	59(31.9)	61(33.0)	53(28.6)
身体の健康・たくましさ	n=172	94(54.7)	34(19.8)	56(32.6)	61(35.5)	49(28.5)
学び・知性	n=150	82(54.7)	60(40.0)	47(31.3)	57(38.0)	40(26.7)
自主性・主体性	n=92	51(55.4)	40(43.5)	28(30.4)	38(41.3)	24(26.1)
人間尊重・人間性	n=69	46(66.7)	34(49.3)	28(40.6)	24(34.8)	19(27.5)
実践力・行動力	n=61	32(52.5)	20(32.8)	20(32.8)	22(36.1)	19(31.1)
国際社会・社会の形成者	n=59	34(57.6)	33(55.9)	21(35.6)	24(40.7)	15(25.4)
創造性	n=57	32(56.1)	22(38.6)	20(35.1)	14(24.6)	22(38.6)
社会性・協調	n=50	35(70.0)	17(34.0)	20(40.0)	15(30.0)	15(30.0)
生きる力・たくましく生きる	n=41	23(56.1)	17(41.5)	13(31.7)	11(26.8)	12(29.3)

目標	n	人 (%)				
		他教師への働きかけ	健康観察	広報活動	集団的保健指導	保健室登校の子どもへの対応
心・豊かな心	n=185	60(32.4)	38(20.5)	29(15.7)	21(11.4)	16(8.6)
身体の健康・たくましさ	n=172	46(26.7)	38(22.1)	29(16.9)	22(12.8)	13(7.6)
学び・知性	n=150	40(26.7)	33(22.0)	22(14.7)	17(11.3)	12(8.0)
自主性・主体性	n=92	26(28.3)	14(15.2)	10(10.9)	8(8.7)	10(10.9)
人間尊重・人間性	n=69	19(27.5)	8(11.6)	10(14.5)	10(14.5)	4(5.8)
実践力・行動力	n=61	18(29.5)	15(24.6)	10(16.4)	9(14.8)	3(4.9)
国際社会・社会の形成者	n=59	18(30.5)	8(13.6)	6(10.2)	5(8.5)	3(5.1)
創造性	n=57	19(33.3)	10(17.5)	7(12.3)	6(10.5)	4(7.0)
社会性・協調	n=50	14(28.0)	8(16.0)	7(14.0)	6(12.0)	4(8.0)
生きる力・たくましく生きる	n=41	12(29.3)	6(14.6)	10(24.4)	5(12.2)	4(9.8)

で有意差が認められたのは、「学び・知性」における教職員の理解であった (p<0.05)。

6) 教育目標と養護教諭の執務に対する他者の評価

同じく教育目標の内容の上位5項目を取り上げ、養護教諭の執務に対する管理職と教職員の評価をみたものが表7である。評価が「普通」が6～7割を占めているのに対して、「高い」は1割台であり、理解と比べると全体的に評価は低かった。その中でも評価が「ある」割合が高い教育目標の内容は、管理職における「自主性・主体性」であった。一方評価が低かった

のは、管理職・教職員ともに「人間尊重・人間性」であり、教職員において、有意差が認められた (p<0.05)。

7) 教育目標と養護教諭が重点を置いている執務との関わり

教育目標の上位10項目と養護教諭が重点を置いている執務上位10位に注目して関わりをみたものが表8である。目標の項目別にみていくと、いずれの項目も救急処置が一番高かった。2番目に高い執務の項目は、目標の10項目中7項目で相談活動であった。「身体の

表9 教育目標の設定がある29都道府県内の各学校における教育目標の設定状況

	生命尊重・人間性	身体の健康	心の健康
都道府県・各校ともに教育目標の中に設定あり	19	11	16
都道府県に設定されておらず、各校の教育目標の中に設定あり	10	18	13

表10 教育目標の設定がある29都道府県と各校の教育目標との関連

	n	平均	検定統計量	等分散分析
生命尊重・人間性	A n=19	29.04	-1.01546	t=0.159451 (df=27) >0.05
	B n=10	40.21		
身体の健康	A n=11	75.91	-1.67696	t=0.052546 (df=27) >0.05
	B n=18	88.11		
心の健康	A n=16	82.28	-0.59536	t=0.278279 (df=27) >0.05
	B n=13	86.54		

A：都道府県・各校ともに教育目標の中に設定あり

B：都道府県に設定されておらず、各校の教育目標の中に設定あり

健康・たくましさ」「実践力・行動力」では個別的保健指導が、「社会性・協調」では個別的支援が2番目に高かった。「身体の健康・たくましさ」の項目を詳細にみると、以下個別的支援、健康診断に関わる仕事、他教師への働きかけ、健康観察、相談活動となっており、相談活動は19.8%と低かった。

8) 都道府県と各校の教育目標との関わり

第1報で捉えた教育目標の設定のある29全国都道府県内の各校における、「生命尊重・人間性」「身体の健康」「心の健康」の3項目の教育目標の設定状況をみたものが表9である。等分散していると仮定して検定したところ3項目ともに $p>0.05$ となり、有意差はみられなかった(表10)。

4. 考 察

1) 教育目標における子どもの生命・健康の位置づけ

各校の教育目標に関連する設定項目をみると、努力目標・重点目標が、小・中・高校とも60.0%を越えているのが注目される。また基本方針・経営方針では、小学校53.3%、中学校47.1%、高校32.9%と減少した。第1報で全国都道府県の分析においても確認されたことであるが、教育関係諸機関の間で、目標、重点目標、基本方針の定義や枠づけが明確でない⁸⁾ ような印象を受ける。教育目標は各校の裁量にまかされているものではあるが、目標の達成にかかわって経営目標(方

針)が構想されることが望ましい⁹⁾といえるであろう。校種間で比較すると「校訓・校風」において学年が上がるにつれて上昇し、「めざす児童生徒像・教師像・学校像・地域像」では、小・中に比べて高校が著しく低かった。高校では学校の実態や地域の実態、子どもの現実の姿からかけはなれたところでその学校にある伝統的な校訓・校風が色濃く反映されていると推察される。高校においても、生徒の精神面の問題や保健室登校が表面化している¹⁰⁾ことから、なんらかの改善が施されることが望ましいと思われる。

各校の教育目標の内容の分析から、子どもの健康に関する目標として「身体の健康・たくましさ」と「心・豊かな心」があげられ、全体的に8割前後を占め上位を占めていた。校種間で比較すると、どちらも学年が上がるにつれて減少傾向を示した。一方「生命尊重」は、全体で3.6%と非常に低かった。松井ら¹¹⁾の報告によると、教育目標での健康の取り上げ方では、目標に健康が明記されていなかったのは28.2%とされており、今回の結果の方が健康が掲げられている割合は若干高くなっていた。また坂田ら¹²⁾は、教育目標の健康に関する表現内容の分析を行っており、身体面・精神面で健康を捉えている学校が62.6%(昭和48年度)、65.2%(昭和58年度)であったこと、さらに身体面のみで健康を捉えている学校が多かったと報告している。本研究では、精神面の健康が83.7%、身体面の健康が77.8%と精神面の健康の方が高くなっており逆転している。これについては、20~30年の時の経過に伴う社会を取り巻く状況の変化と、それに伴い、

1990年代後半から「心の教育」¹³⁾が指摘され出したこと等が背景にあると考えられる。さらには子どもたちの健康問題に占める心の領域の拡大も見逃してはならないと思われる。

次に上滝ら¹⁴⁾の日本の教育目標の分析結果と比較してみたい。分析は昭和22年から昭和49年までを4期に分けて、目標に出現した要素を順位別にまとめており、時代により教育目標の内容は変化流動していることが捉えられる。本研究の結果と比較すると「健康」が上滝らの結果でも上位を占め、特に第4期ではそれ以前に見られなかった「豊かな情操」が2位にあがっている。一方本研究で3位に入っている「学び・知性」は上滝らの分析結果では、どの時期でも低いところに位置していることがわかる。また、「生命」については、上滝ら¹⁵⁾の調査結果では2.6%と報告され、本研究の結果(3.6%)はほぼ同様の結果であった。学校教育目標の具備すべき要件として、奥田¹⁶⁾は法律、学習指導要領、教育委員会の規則・方針等を理解することの他、地域や学校・子どもの実態等に即することをあげており、大きな時代の流れでみていくと教育目標は、時代の変化、子どもの変化に対応していることがうかがえる。

校種別に教育目標の内容を比較すると、小学校では「生きる力」を養い、中学校では、小学校で培った「実践力・行動力」「自主性・主体性」をさらに伸ばして、自主的に行動する力を育成し、さらに高校では、「自主性・主体性」を求めながら、「国際社会・社会の形成者」を色濃くめざすという発達段階に対応した特徴が捉えられた。これらを健康教育の視点で捉えるならば、子どもが生涯を通じて健康に生きていく力を小学校では基礎を伝え、中学校で実際に行動できるようにし、高校では他者の健康へも働きかける力を養うという解釈も可能であると思われる。教育目標の具現化に養護教諭としてどのように参加・働きかけを行っていくかという学校全体の機構・体制・方針の理解と協働の視点も重要であると思われる。

2) 教育目標の内容と学校の雰囲気との関わり

第2報で触れたように養護教諭は保健室に居ながら、学校全体の雰囲気を捉えることができる立場にある¹⁷⁾。そこで、ここでは各校の教育目標と学校全体から養護教諭が受ける印象を子どもに対してと職員に対しての二側面から捉え、その関わりをみた。すなわち、学校の教育目標はその学校の雰囲気に何らかの影響を与えているかどうかということである。子どもに対する印象の結果をみると、「生きる力」「勤労」「責任」「意欲・意志」「個性」「礼儀・規律を守る」で若干子どもに対する印象との間に関連が見出されたものの、全体

的にみると、両者が関連しあっているとはいえないことがわかった。すなわち学校教育目標は、その学校の子どもに対する印象にはあまり影響をしていないということである。先に学校教育目標は子どもの実態に即して内容の変化が認められると推測したが、その一方で、教育目標の学校教育活動への影響は緩慢であるといえるかもしれない。松井らの考察¹⁸⁾で「小学校の保健活動の状況を組織面から検討した結果、各学校の教育目標での健康の踏まえ方の違いによって特に顕著な差はみられなかった」という指摘がある。1)で考察したように、教育目標と実際の学校教育活動のつながりは必ずしも密接に関連しているとはいえず、むしろ遊離していることが危惧される。

さらに教育目標と職員に対する印象との関わりをみると、全体的にみて、両者の間に目立った関連性は認められなかった。学校教育目標の主旨が、その学校の子どもをどういう人間に育てるかに主眼が置かれているとすると当然の結果といえるかもしれない。

3) 教育目標と養護教諭の執務に対する他者の理解と評価

ここでは、教育目標の上位5項目を取り上げ、養護教諭の執務に対する管理職と教職員の理解と評価の関わりをみた。

理解については、教育目標のいずれの項目においても理解が「ある」「普通」を合わせて約9割を占め、養護教諭の執務に対する理解は高いといえる。管理職の方が教職員より理解が高い傾向がみられた。これは第2報¹⁹⁾でも触れたように、養護教諭の執務に対する他者の評価の判断理由として、教職員より管理職の方が「関心がある」「執務に対する理解がある」「支援・協力的である」の各項目が高かったことからうかがえる。最も「理解がある」割合の高い教育目標が「自主性・主体性」であったことから、養護教諭の保健室での日々の子どもの対応や、学校全体における保健教育活動全体が子どもが自主的に自らの健康を守り育てる力をはぐくむことに主眼がおかれていることが背景にあるように思われる。その一方で「人間尊重・人間性」と「学び・知性」では理解が低かった。「学び・知性」を学校の教育目標として掲げられている場合には、養護教諭の執務に対する他者の理解は低いということがいえるようである。しかし、「人間尊重・人間性」が教育目標として掲げられている場合に、養護教諭の執務に対する他者の理解は低いということはどうのように考えればよいであろうか。多くの研究者^{20)~22)}が指摘するように養護教諭の仕事すなわち養護活動は究極的に子どもの人間性を育む教育職としての働きかけが内在することは周知のとおりである。しか

し、ここで様々な職種の意見に謙虚に耳を傾ける必要もあるであろう。瀬古²³⁾は、管理職や異職種の教職員からみた養護教諭像について、救急処置場面の対応に愛情が感じられないと指摘している。また80年代に入って学校の荒廃から、保健室を閉鎖状態にせざるを得ない学校の存在がみられた²⁴⁾が現在も皆無ではないと思われる。すべての子どもを一人一人受け入れ子どもの心に寄り添った丁寧な対応をしている多くの実践例^{25)~27)}に学び、すそ野を広げていく必要があるとともに、養護教諭が本来の養護活動を実践できるような環境の改善・整備が急務であろう。

養護教諭の執務に対する他者の評価は、理解より総じて低いものになっていた。養護教諭は学校教育目標や、重点目標や、経営方針に基づいて展開される教育課程にもっと着目して、自らの仕事の点検を行うことも必要であろう。さらには、養護教諭としての専門的立場から、子どもたちが健康で安全でかつ楽しく学校生活を送れるように積極的に学校経営に参画したり、教育課程の編成に関心を持つ²⁸⁾こと、たとえば子どもの心身の健康状態や生活リズムを考慮して、授業時数の配当などに反映させること²⁹⁾(教育生理学的な検討³⁰⁾や研究³¹⁾)等が必要と思われる。以上のような観点から健康教育に取り組む実践事例として、鳥根県の小学校の健康教育の実践例³²⁾は養護教諭として学ぶところが多い。

4) 教育目標と養護教諭の執務および教育委員会の教育目標との関わり

教育目標の上位10項目と養護教諭が重点を置いている執務上位10位との関わりをみたところ、「心・豊かな心」「身体の健康・たくましさ」「学び・知性」「自主性・主体性」「実践力・行動力」「国際社会・社会の形成者」「創造性」「社会性・協調」で若干の関連性が認められ、主として「救急処置」「相談活動」「個別的保健指導」「個別的支援」「健康診断に関わる仕事」がキーポイントとして示唆された。養護教諭の活動レベルでは、個別的対応において子どもの実態に即したきめ細やかな養護活動が行われていると推察することができる。今後は個別的対応の技術をさらに学校全体や集団的な指導にどのように活かし、発展させていくかが重要となるであろう。すでに養護教諭は兼職発令により教科指導の資格が確保されている³³⁾。教科指導によって個別対応の力量をさらに伸ばすことの可能性もさることながら、個別対応で培われる力量は集団指導に還元できるであろうし、両者は相互に影響し合って、養護教諭の能力を伸ばしていくものと思われる。養護教諭の取り組みにおおいに期待したい。

先に触れたが学校教育目標は法律の他に学習指導要

領、教育委員会の教育方針を理解し、設定される。ここでは第1報で把握した全国都道府県の教育目標の内容と各校の教育目標の関連性をみたが、両者に関係性は認められなかった。このことは、各校の教育目標に関連する設定項目のうち「県・町の指導方針」が小学校10.7%、中学校17.1%、高校3.9%という総じて低い結果からも類推することができる。上滝らの調査³⁴⁾でも、学校教育目標の作成に当たって教育委員会の示した目標(大綱)との関連ないし調整で苦労しているとするものが、わずか2.9%、また重視する事項で教育委員会の意見が0.5%という結果が報告されている。さらに教育委員会の姿勢として、概して各学校に深入りはせず、学校の独自設定に多くの期待をかけているようだ³⁵⁾と指摘しており、本研究の結果は、これらの先行研究を裏付けるものとなった。各校の教育目標設定においては、一般にこうあるべきという建前と実際上の実務の間に少し距離があるようである。この点については、今後さらに検討していきたい分野である。

5. ま と め

本研究は、学校教育において子どもの生命や健康がどのような位置づけにあるのかを各学校の教育目標に着目して分析を試み、さらに養護教諭の執務に対する他者の理解や評価との関わりも明らかにした。分析対象は、全国の小・中・高校を無作為抽出し、資料の提出があった小75校、中70校、高76校の計221校である。小・中学校では子どもの実態をとらえて教育目標が設定されているのに対して、高校では校訓・校風が教育目標に反映される傾向が認められた。

教育目標の内容は25項目に分類することができ、「心・豊かな心」「身体の健康・たくましさ」が全体の約8割を占めた。なお、「生命尊重」は3.6%と低かった。一方教育目標と養護教諭の執務に対する他者の理解および評価では、全般的に評価より理解が高い傾向が認められ、内容別では教育目標が「自主性・主体性」では理解および評価が高く、「人間尊重・人間性」と「学び・知性」では低かった。これらのことから、学校教育目標に子どもの心身の健康が掲げられている今、養護教諭は子どもの健康を守る日々の養護活動を学校教育の中に確固たる位置を確保することが大切であり、学校全体に教育目標が脈々と息づくための働きかけをしていくことが望まれる。そのような活動が養護教諭の執務に対する他者の理解や評価を高めていくことにつながっていくものと思われる。また、子どもの「人間尊重・人間性」の教育を養護教諭が担っていることを改めて自覚し、すぐれた実践者のすそ野をさ

らに広げていくことが望まれる。今後は、学校教育全体を見据えた養護教諭の養護活動の展開のあり方や養護教諭の力量形成に関する研究につなげていきたい。

最後に、調査にご協力くださいました全国の現職養護教諭の皆様にご心より感謝し、お礼申し上げます。なお、本稿の要旨は、第49回日本学校保健学会³⁶⁾(2002年、札幌)で発表した。

参考文献

- 1) 江橋慎四郎他：教育学講座 14 健康と身体の教育、まえがき、学研、東京、1980
- 2) 下村哲夫：教育目標、新版教育学用語辞典（岩内亮一他編）、70、学文社、東京、1986
- 3) 松井利幸他：教育目標と学校保健活動その1－健康のふまえ方と学校の組織について、第19回東海学校保健学会講演集、18、1977
- 4) 松井利幸他：教育目標と学校保健活動その2－各校の教育計画にみる健康領域について、第20回東海学校保健学会講演集、18、1978
- 5) 坂田利弘他：学校「教育目標」における健康に関する表現の分析、第28回東海学校保健学会講演集、16、1985
- 6) 齊藤ふくみ・天野敦子：学校教育における子どもの生命・健康の位置づけに関する研究第1報教育行政における教育目標の分析を通して、熊本大学教育学部紀要、50、232-242、2001
- 7) 齊藤ふくみ・小田徳彦・天野敦子：学校教育における子どもの生命・健康の位置づけに関する研究第2報養護教諭の職務との関連を中心に、熊本大学教育学部紀要、51、273-286、2002
- 8) 上滝幸治郎他：日本の学校教育目標、46、ぎょうせい、東京、1978
- 9) 前掲書 8)、46
- 10) 日本学校保健会：保健室利用状況に関する調査報告書、11-14、1997
- 11) 前掲書 3)、18
- 12) 前掲書 5)、16
- 13) 大原健士郎他：特集養護教諭が「心の教育」にどうかかわっていくか、学校保健のひろば、46 (7)、11-71、1998
- 14) 前掲書 8)、158
- 15) 前掲書 8)、58
- 16) 奥田真丈他編：現代学校教育全集教育目標、29、ぎょうせい、東京、1980
- 17) 三木とみ子：子ども達から広がるヘルスプロモーション——保健室から健康が見える、子どもが変わる——、平成13年度千葉県学校保健学会教育講演会、2001
- 18) 前掲書 3)、18
- 19) 前掲書 7)、282
- 20) 小倉学：改訂養護教諭——その専門性と機能、142-151、東山書房、京都、1985
- 21) 堀内久美子：第3章保健教育と保健室第1節人間形成の機能（江口篤寿他編「現代学校保健全集15保健室」）、138-144、ぎょうせい、東京、1982
- 22) 大谷尚子：第1章養護の概念（養護学概論）、23、東山書房、京都、1999
- 23) 瀬古淳二：他職種から養護教諭を視る、日本養護教諭教育学会第10回学術集会抄録集、26-27、2002
- 24) 東京・芽の会著：わたしたちの養護教諭論、24-25、あゆみ出版、東京、1984
- 25) 芝喜久美：悪ガキやさみしい奴の心の味方に……ヤッちゃん、保健室にきてくれてありがとう、健康な子ども、28 (8)、15-17、1999
- 26) 高田公子：保健室における生命論理の個別指導、学校保健研究、31 (10)、464-468、1989
- 27) 富田富士也編：養護教諭でよかった——親や子に支えられた一言、健康教室、52 (4)、2001
- 28) 高田公子：あなたの学校では子どもの健康を優先した教育課程を編成していますか？、健康教室、40(7)、103-107、1989
- 29) 吉田螢一郎：第5章教育に果たす養護教諭の役割3教育課程と養護教諭（三木とみ子編「養護概説」）、71、ぎょうせい、東京、1999
- 30) 高石昌弘：新版学校保健概説第三版、82、同文書院、東京、2001
- 31) 天野敦子：第3章養護教諭に必要な能力7研究能力（三木とみ子編「養護概説」）、45、ぎょうせい、東京、1999
- 32) 吉本二郎他編：保健・体育・給食、現代学校教育全集7、285-289、ぎょうせい、東京、1980
- 33) 三木とみ子編：養護概説、21、ぎょうせい、東京、1999
- 34) 前掲書 8)、39
- 35) 前掲書 8)、33
- 36) Fukumi Saito, Naruhiko Oda and Atsuko Amano: A Study on the Positioning of Children's Life and Health in School Education (Report3)-Focusing on its Relationship with Educational Goals of Individual Schools-, Japanese Journal of School Health, Suppl.44, 124-126, 2003